UNHCR
The UN Refugee Agency

70 YEARS PROTECTING PEOPLE FORCED TO FLEE

アフガニスタンにおける帰還民、国内避難民、ホストコミュニティの教育支援

JS Foundation への最終報告

2021 年 3 月

プロジェクト概要

プロジェクト名	アフガニスタンにおける帰還民、国内避難民、ホストコミュニティの教育支援
実施場所	アフガニスタンのカブール州とパルワン州
目的	人々が、最適な教育を受けられること
実施期間	2020 年 1 月～12 月
成果	子どもたち 1,600 人が教育を受けられる
予算	US$ 239,234.45

背景

活動を取り巻く状況

40 年続く武力紛争、繰り返し起きる自然災害、慢性的な貧困、そして新型コロナウィルス感染症のパンデミックは、アフガニスタンの避難民やホストコミュニティを脅かし続けている複合的な要因となっています。

新型コロナのパンデミックによる社会経済的な影響が引き起こしたひどい食料不足は、2018 年の干ばつに匹敵する程です。推定 1840 万人という人口の約半数近くが生きるために人道援助を頼り、数千万人が何等かの社会的援助を必要としています。さらに、約 880 万人もの帰還民と国内避難民（故郷から避難している人々）は故郷に戻れないまま、かさみ続ける借金に対処できなくなりつつあります。

520 万人以上のアフガン難民が、2002 年以来 UNHCR の支援を受けて帰国しました。2020 年には庇護を受けていた 7 か国からアフガン難民 2,147 人が帰国しました。パキスタンから 1,092 人、イランから 939 人、 その他の庇護国から 116 人です。

教育は、2020 年にアフガニスタンで実施した UNHCR の活動において重要な分野でした。若い避難者の多くは、学ぶ機会が社会文化的な障壁によって制限され、

教育や生涯学習へのアクセスといった基本的なサービスを受けられません。この国の困難な状況にも関わらず、UNHCR はアフガン帰還民や国内で避難している少女や女性などの若い避難民が、教育の機会にアクセスできるように支援を続けています。

2020 年 UNHCR の活動

新型コロナウィルス感染症のパンデミックは、健康面と社会経済面でさらなる影響を与え、帰還民や国内避難民を含むアフガニスタンの国民の脆弱性を悪化させました。その結果, 避難民の学生が勉強を続けることはさらに難しくなりました。また、家族が児童労働や強制婚といった害のある対処法に頼らざるを得なくなる危険性も高まりました。

そこで UNHCR は、新型コロナウィルス感染症に対応する アフガニスタンを支援しました。避難を経験した家族や個人のために、保護と支援活動を続けたのです。UNHCR の援助の大部分は、アフガニスタンの「帰還と統合の優先地域」（PARRs = Priority Areas of Return and Reintegration) で実施されました。

JS Foundation の温かい支援で建設されたデー・ミスキン小学校の貯水槽で手を洗う生徒たち

© UNHCR/Gulbuddin Elham

帰還と統合の優先地域 (PARRs)

PARRs は、アフガン難民が帰還しているコミュニティで不可欠な施設やサービスを拡充することでアフガニスタン政府を支援する UNHCR の活動にとって、鍵

となる構成要素です。2020 年 12 月、アフガニスタンの難民・再定着省と UNHCR は、追加 20 か所を PARRs に特定して承認し、合計 40 か所の PARRs が、この国の 34 州のうち 23 州に位置することになりました。推定 180 万人の帰還民が、現在この 40 か所で暮らしています。総計 83 万 9042 人のアフガン難民がこの新たに特定された 20 か所の出身ですが、すべての帰還民が出身地に戻るわけではありません。

UNHCR は、避難を強いられたアフガニスタンの人々が持続的に再定着するためのより良い条件を創出するために、教育インフラの建設や修復といった不可欠な公共施設の設営、教育を含む基本的サービスへのアクセス改善も支援しています。

教育プロジェクトの実施

JF Foundation の支援を受けたプロジェクトの実施は、 新型コロナウィルス感染症のパンデミックと、アフガニスタンの国家治安防衛軍と武装グループ間の戦闘の影響を被りました。

デー・ミスキン（Deh Miskin）小学校、ムスリム・アバド（Muslim Abad）の位置を示す地図。新たに建設された学校に、学齢期の生徒 1600 人が通学できる

しかし、パンデミックや治安の問題にも関わらず、JS Foundation からの温かいご支援を得て、UNHCR はパルワン州とカブール州に合わせて 2 校を建設しました。この場所やニーズは、アフガニスタン政府、帰還民、国内避難民、ホストコミュニティの人々との話し合いを経て、特定されました。

パルワン州のデー・ミスキン（Deh Miskin）小学校は、すでに 教育省に引き渡され、カブール州のムスリム・アバド（Muslim Abad）小学校は 2021 年 3 月に教育省に譲渡されます。教育省は、学校スタッフに報酬を支払い、生徒に教材を配り、このプロジェクトの持続性と学齢期の子どもたちの継続的な教育を保障します。

新たに建設されたデー・ミスキン小学校の開校に立ち会った UNHCR アフガニスタン代表（Ms Caroline Van Buren）、国連難民高等弁務官（Mr. Filippo Grandi）、 難民帰還担当大臣（Mr. Noon Rahman Akhalqi） © UNHCR/Farzana Wahyid

2021 年も UNHCR は、難民や庇護希望者に国際的保護を提供すること、帰還民や国内避難民が持続的に帰還し再定着するためにより良い環境を創出すること、新型コロナウィルス感染症のパンデミックによる影響を抑制することに焦点を当てる通常プログラムを通じて、アフガンスタンを支援し続けます。

UNHCR は 2021 年、合計 310 万人の 難民、帰還民、国内避難民、ホストコミュニティの住民が、教育施設の修復を含む、このようなコミュニティに根差すプロジェクトの恩恵を受けるだろうと推定しています。

新たに建設されたデー・ミスキン（Deh Miskin）小学校

デー・ミスキン小学校は、パルワン州のラグハミ（Laghami）にあります。8 教室の学校建設は2020年8月に完了しました。開校式は2020年11月に開催され、式典には難民帰還担当大臣（Mr Noor Rahman Akhalqi）、パルワン州知事（Fazluddin Ayar）、国連難民高等弁務官（Mr Filippo Grandi）、UNHCR アフガニスタン事務所代表（Ms Caroline Van Buren）といった高官が参列しました。

この学校は 2 回入れ替え制で 800 人の子どもたちを受け入れることができます。この建設事業は、教育省によって決められた標準構造に沿ったものです。

学校は以下で構成されています。

- ８教室 (750cm x 500cm)
- ２事務室 (400cm x 300cm)
- 廊下 (250cm x 4,320 cm)
- 階段 (500cm x 400cm)
- 実験室 (750cm x 500cm)
- 会議室 (750cm x 500cm)
- コンクリートの板にトタンが張られた木枠の屋根

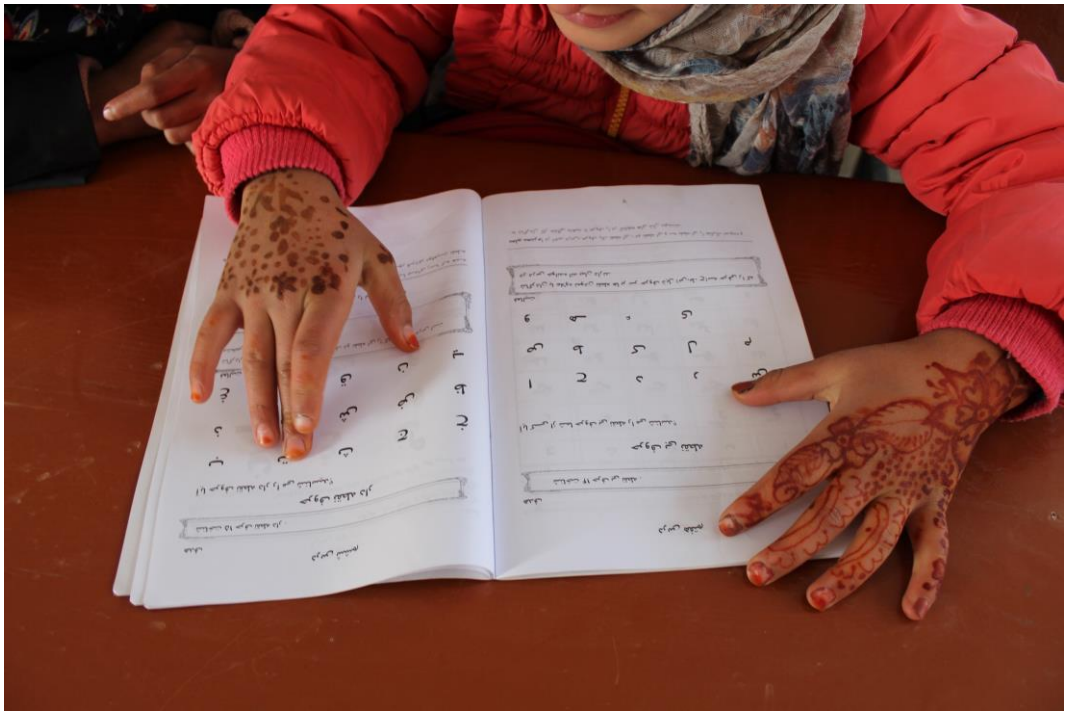
他に以下の設備があります。

- 教室と実験室用の机 200 台と椅子
- コンピューター室用の備品
- ５つのトイレ(150cm x 200cm) と浄化槽 (200cm x 150cm x 150cm);
- 校舎への水供給用の井戸一基
- 水と衛生のためのコンクリートで補強された貯水槽
- ゴミ収集所
- 正面ゲートと歩行者用ゲートを備えた外壁

JS Foundation からの温かいご支援によって、デー・ミスキン小学校の建設費用すべて（US$ 203,506.25）を賄うことができました。

デー・ミスキン小学校の入り口　© UNHCR/Abdul Basir Wafa

デー・ミスキン小学校の教室を訪問する来賓　© UNHCR/Gulbuddin Elham



教科書を読む生徒　© UNHCR/Gulbuddin Elham

小学校の前にあるバレーボールコート　© UNHCR/Abdul Basir Wafa

新たに建設されたムスリム・アバド（ Muslim Abad）小学校

ムスリム・アバド小学校は、カブール州のタラカイル・ダーグ（Tarakhail Daag）にあります。 8 教室の学校建設は、2020 年 11 月に完了しました。開校式は UNHCR アジア太平洋局長（Mr Indrika Ratwatte）が参列し、2021 年 3 月末に開催されます。その後、学校はアフガニスタンの教育省に引き渡されます。

新しく建設されたムスリム・アバド小学校　© UNHCR/Abdul Basir Wafa

この学校は 2 回入れ替え制で、800 人の子どもたちを受け入れることができます。この建設事業は、教育省によって決められた標準構造に沿ったものです。

ムスリム・アバド小学校の入り口　© UNHCR/Abdul Basir Wafa

学校は以下で構成されています。

- ８教室 (750cm x 500cm)
- ２事務室 (400cm x 300cm)
- 廊下 (250cm x 4,320 cm)
- 階段 (500cm x 400cm)
- 実験室 (750cm x 500cm)
- 会議室 (750cm x 500cm)
- コンクリートの板にトタンが張られた木枠の屋根

他に以下の設備があります。

- 教室と実験室用の机 200 台と椅子
- コンピューター室用の備品
- ５つのトイレ(150cm x 200cm) と浄化槽 (200cm x 150cm x 150cm);
- 校舎への水供給用の井戸一基
- 水と衛生のためのコンクリートで補強された貯水槽
- ゴミ収集所
- 正面ゲートと歩行者用ゲートを備えた外壁

ムスリム・アバド小学校の教室　© YGES

ムスリム・アバド小学校の教室　© YGES

ムスリム・アバド小学校の場合、JS Foundation からの温かいご支援によって、建設費全体（US$ 203,506.56）の 10%（US$ 21,157.04）を賄うことができました。不足分は他からのご支援によって補われました。

VISIBILITY

UNHCR は、JS Foundation からの温かいご支援について、次のように明示させていただきました。

石碑

- デー・ミスキン小学校の正面に JS Foundation ロゴ入りの石碑を設置しました。

- ムスリム・アバド小学校の正面に、JS Foundation ロゴ入りの記念碑を設置しました。

Tweet

- UNHCR は JS Foundation のご支援について、UNHCR アフガニスタン事務所の公式ツィーターで発信しました。
https://twitter.com/UNHCRAfg/status/1336539043052609537

UNHCR は、JS Foundation による帰還民、国内避難民、ホストコミュニティの住民へのご支援とご貢献に対して、深い感謝の意を表します。

2020 年の経費

アフガニスタンにおける UNHCR の活動をご支援くださったことによって、若い帰還民、国内避難民、ホストコミュニティの住民に教育支援を提供することができました。このたびのご寄付は約 1600 人への支援につながりました。

Activities	Quantity	Estimated # of beneficiaries	Total cost (USD)
デー・ミスキン小学校の建設	1	800	USD 203,506.25 100% JS Foundation からのご寄付
ムスリム・アバド小学校の建設	1	800	USD 21,127.04 10% JS Foundation からのご寄付
		小計	**USD 224,633.29**
		UNHCR 事業サポート費 6.5%	**USD 14,601.16**
		合計	**USD 239,234.45**

ANNEX

生徒と教員のストーリー

マルジアちゃんは、パルワン州デー・ミスキン生まれの 15 歳です。姉妹 6 人、兄弟 3 人がいます。自由な時間には、家で母親を手伝い、妹や弟の面倒を見ています。

彼女は 6 年生で、算数とイスラム教の学習が好きです。12 月から 3 月までの冬休みには、家で勉強し、親戚を訪問しました。

何にも増して、マルジアちゃんは新しい学校に戻れてわくわくしています。「学校の壁にあるアフガニスタンの国旗が一番好きです」と新しい学校について語りました。さらに、クラスメートと一緒に校庭で遊ぶことを楽しんでいます。

彼女の夢は、教師になることです。男子だけでなく女子のためにも、学校、公園、運動施設がもっと建てられるよう願っています。

モハメド・サフィール君（12 歳）は、姉妹 3 人と兄弟 3 人と一緒に、カラエサイフ（Qala-e-Salih）に住んでいます。

モハメド君は 6 年生で、算数と英語が一番好きです。冬休みの間、クラスメートを恋しく思っていました。マドラサ（Madrasa）と呼ばれるイスラム教学校や寺院（mosque）で会うことはありましたが。冬休み中も、コンピューターと英語の勉強を続けました。家で勉強した後は、サッカーばかりしていました。

彼は特に校庭でするバレーボールが好きです。モハメド君は将来エンジニアになる夢があり、自分やクラスメートがアフガニスタンの未来を作ると考えています。そして、いつかこの地域に、公園、運動施設、青年センターができるよう願っています。

ムジーブ・ラフマン君（12 歳）は、パルワン州のデー・ミスキン村生まれです。兄弟 2 人と姉妹 2 人がいて、時間があればサッカーをしています。

好きな教科はダリ語と英語です。彼は 6 年生で、学校が休みの間は、家で勉強していました。また、近隣にあるマドラサに通い、サッカーをしたりしていました。

学校のどこが一番好きかと聞かれた時、「校庭」とムジーブ・ラフマン君は自信をもって答えました。緑の区画と運動場と教室に魅了されました。毎朝学校に 8 時 20 分に到着し、正午に終わります。一日平均 5 科目の授業を受けます。

ムジーブ・ラフマン君の夢は医者になることで、学校、公園、運動場がこの辺りにもっとできるよう願っています。

ラル・アグハさん（26 歳）はバグラム地区のデー・ミスキン村に住み、この近辺を離れたことはありません。この 4 年間教員であり、4 年 5 年 6 年生に英語と算数を教えています。

「古い学校はひどい状態でした。全面的に破壊された借家で、教育にふさわしくありませんでした」と、ラルさんは古い学校で教えていた日々を語りました。壁の割れ目から虫が出てきて、生徒は運動する機会もありませんでした。

ラルさんは、近隣に新しい学校が建設されると聞き、とても嬉しく思いました。さらに、学校に貯水槽や運動場やトイレが備えられているのを見て喜んでいます。彼は、生徒が自分の家と同じように学校を扱ってくれることを願っています。

モハメド・サリムさん（29 歳）は、トグビルディ（Toghbirdi）出身の教師です。彼はこの 9 年間教員であり、コーランを 5 年生と 6 年生に教えています。

冬休みの間、彼はソーシャルメディアや携帯電話を通じて、生徒と頻繁に連絡を取りました。モハメドさんは、建設場所の選定前に行った調査に関わりました。

「びっくり！」が、彼にとってこの学校の最初の印象でした。

「学校に入ると、生徒が校庭でサッカーやバレーボールをしている姿を目にして、それから教室に入りました。すべてに感銘を受けました」と、学校での最初の瞬間について語りました。

彼は、この学校がコミュニティの全員一人ひとりに価値をもたらすよう思い定めています。生徒たちがしっかり勉強して彼らの未来を明るくするように願うとともに、コミュニティが、この「美しい建物」と彼が形容する学校を維持する役割を積極的に果たすことを期待しています。

表紙:デー・ミスキン小学校の開校式. © Farzana Wahidy, 2020

UNHCR
The UN Refugee Agency